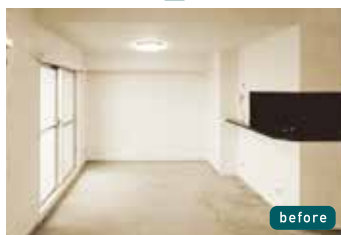




小物を飾っていたスペースもどンドン本で埋め尽くされていくという本棚。「子どもの本は装丁が賑やかなのでオシャレな感じにはならないんですが(笑)、勉強ではなく趣味として本を読む子に育ってくれたので、うれしいですね」と奥様。元和室の地窓は明かり取りとして上手に活かしています。



照明のスタイリッシュなデザインが効いているダイニングキッチンには、以前よりもぐんと開放的に。カウンターのモルタルは、撥水性の実験をしてより効果の高かった塗装仕上げを選んだそうです。



インテリアに馴染む色を探したというピアノ。ご主人のお母様がピアノの先生で、お子様たちも幼い頃から習っているのので、「わが家にとって欠かすことのない存在」だとか。



わが家らしく、心地よく。 好きなものに囲まれた こだわりの住まいづくり。

+

イマドキ
リノベの
処方箋
15

【兵庫県神戸市】O様邸

今回ご紹介するのは、築30年のマンションのスケルトンリノベーション。
住戸内を柱や梁など構造体だけの“空っぽの箱”の状態にして、
内装から間取り、設備まですべてを一新した大規模なリノベーションです。
住み慣れた街で暮らし続けたい、という想いのもと、
わが家ならではのこだわりの住まいづくりを実現した
O様ファミリーにお話を伺いました。



子どもたちの成長を機に リノベ計画をスタート。

玄関の扉を開けた瞬間に、住まいや暮らしに対する感度の高さが伝わってくるO様邸。構想に約1年、工事に約3カ月を要したリノベーションは、どのような流れで実施することになったのでしょうか。

「もともと同じ敷地内の別の棟に住んでいて、最初はその家でリノベーションを検討していたんです。ただ、子どもたちの成長を考えると、もう少し広い方がいいね、という話になって。住み慣れたこの街が気に入っていたので、それならここで中古物件を探して、一から間取りや内装を決めることができるスケルトンリノベーションをしよう、ということになりました」

リノベーション業者の選定に関しては、デザイン主体の設計事務所から工務店まで検討を重ねた結果、マンションの事業主である積水ハウスグループの管理会社、積水ハウスGMパートナーズへ依頼。「構造や設備などテクニカルな部分も含めてやはり一番安心感がありました。また、近くに住む親族のマンションのリノベーションを担当された積水ハウスGMパートナーズさんへの信頼感も大きかったですね」

家族の好きなものを集めた 心地よいリビングを。

ベースとなるプランは、住まいづくりに興味のあるご主人が自ら作成されたそうです。「一番意識したのは、家族が自然と集まる広々とした心地よい空間づくりです。そこで、本や植物や生き物など目に入るものすべてがみんなの好きなもので構成されているリビングを考案しました」一方、奥様がこだわったのはピアノの位置だとか。

